

第41回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録

●平成27年12月7日(月) 16:00~18:10、上尾市文化センター

【議事結果】

- ① 「これまでのモニタリング結果のとりまとめ」について、「動物相」のとりまとめ方法を了承する。
- ② 将来の本格的な組織体制や資金確保方策は引き続き検討していくが、当面の資金管理が必要なので、現時点で可能な方法を細則として設けてルールを明確にすることとする。
- ③ 外部オブザーバーについては、参考となる意見がいただけられると思われるので、委員会の提案どおりに現地視察を実施する。また、そのために必要な情報収集を目的とした協議会委員および知己を対象としたアンケートの実施を了承する。オブザーバーの選定や実施日の設定は維持管理・環境管理専門委員会に対応する。
- ④ 外来樹木伐採の維持管理試行のイベント企画を了承する。細部の設定は維持管理・環境管理専門委員会に対応する。
- ⑤ 上池モトクロス場跡地D整備地の来年度からの維持管理試行について了承する。次回の協議会に維持管理・環境管理専門委員会から案を提出する。
- ⑥ イベントの会計収支のマイナス分については、次年度に繰り越すこととする。
- ⑦ 今後のイベントは内容をレベルアップする必要があるので、広報WGで方向性・手法を考えて欲しい。
- ⑧ 今のイベントはコストがかかりすぎている。維持管理・環境管理専門委員会では実施予定のオブザーバー視察における意見も参考にして、誰を対象に何をするかを考えて、事務局に頼りすぎず、各委員の自力で可能な内容を実施したい。今回は一部の自治体の積極的な協力が有効であったが、各自治体に協力してもらうためには、協議会としての努力が必要である。

【主な議事内容】

◎協議事項

●第40回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録

(質疑応答無し)

●生態系モニタリング専門委員会の活動

- ・ 「太郎右衛門地区全体の調査」の生物調査は、項目ごとに実施している年としていない年があるが、これは委員会で検討して設定したのか。
→委員会で検討して設定したものである。H20までは全体構想・実施計画を作成するための基礎情報として各項目ともほぼ毎年実施していた。H21からは整備箇所調査を実施していたが、引き続き全体の基礎情報も定期的に収集する必要があると判断し、H24からは各項目を3年に1回実施することとなった。
- ・ 「これまでのモニタリング結果のとりまとめ」について、「動物相」のとりまとめ方法を了承する。

●維持管理・環境管理専門委員会の活動

- ・ 「都市林」は、都市周辺の環境保全のために必要なものという主旨であるので、太郎右衛門地区には合わないように思われる。河川敷については、むしろ「広域公園」が適用できるのではないか。
 - 「広域公園」は利用を前提としているので、太郎右衛門地区には合わないのではないかと思われた。一方、都市林については、制度としての解釈はご意見のとおりとは思われるが、過去に検討された経緯があり、現状も「休止」という扱いであるため、適用できる可能性が高いのではないかと見込んでいる。ただし、このあたりは委員会として勉強中の段階であるので、ご指摘も含めて引き続き検討していく。
- ・ 太郎右衛門地区を含む範囲が調節池化された場合には、公園化や維持管理はどのような取り扱いになるのか。
 - 調節池の中になっても公園化は可能と思われる。
 - 河川管理者としては、調節池化する際においても、これまでの自然再生事業の経緯を尊重する形で進めて行く。維持管理の在り方は、その前提で引き続き検討していただきたい。
- ・ 九州の「アザメの瀬」の事例が河川区域内の自然再生なので、その情報を参照してはどうか。
- ・ 将来の本格的な組織体制や資金確保方策は引き続き検討していくが、当面の資金管理が必要なので、現時点で可能な方法を細則として設けてルールを明確にすることとする。
- ・ 外部オブザーバーについては、参考となる意見がいただけると思われるので、委員会の提案どおりに現地視察を実施する。また、そのために必要な情報収集を目的とした協議会委員および知己を対象としたアンケートの実施を了承する。
 - 自然再生地なので、観光関係者にはその内容を勉強してもらう必要があるのではないか。現時点で呼ぶのは時期尚早に思われるので、エコツーリズムのように自然を取り扱っている人が良いのではないか。
 - 自然再生になじみの無い方を呼ぶと、協議会の方向性とズレた意見も当然出ることは想定している。オブザーバーには権限があるわけではないので、合わない意見を受け入れることはしない。一方で、普段は自然になじみの無い方であればこそ、協議会の中からは出てこなかった違った視点が出てきて参考になることを期待している。
 - 取り組みを実施する上では、「時期」の問題がある。2020年のオリンピックを控えたこの時期であればこそ、いろいろなバックアップを得やすいことを意識しておきたい。
 - 「オブザーバー」は、広く意見を聴くという意味で呼ぶのであれば、自然再生となじみの無い方を呼ぶことでも良いと思われる。呼ぶに当たっての費用はどうするのか？
 - ボランティアで来てくれる方を対象としたい。自然再生の主旨についてはご説明しておく。
 - オブザーバーの選定や実施日の設定は維持管理・環境管理専門委員会で対応する。
- ・ 外来樹木伐採の維持管理試行のイベント企画を了承する。細部の設定は維持管理・環境管理専門委員会で対応する。
- ・ 上池モトクロス場跡地 D 整備地の来年度からの維持管理試行について了承する。次回の協議会に維持管理・環境管理専門委員会から案を提出する。

●広報WGの活動

- ・ イベントの会計収支のマイナス分については、次年度に繰り越すこととする。なお、収支のバランスシートについては、正式な会計用語を使うようにしておく。
- ・ 上尾市の担当者が、機会あるごとにチラシを配った効果があったと聞いている。そのような広報を今後も積極的に取り組むと良い。また、効果を検証するため、参加者の居住地の内訳を確認しておくが良い。
- ・ 今回は「楽しめる」内容を企画し、広報も上手く行ったようで、多くの参加者に楽しんでもらえたのは良かった。ただ、それを繰り返すのではなく、今後のイベントは内容をレベルアップする必要があるので、広報WGで方向性・手法を考えて欲しい。
- ・ 今回のイベントはコストがかかりすぎている。維持管理・環境管理専門委員会で実施予定のオブザーバー視察における意見も参考にして、誰を対象に何をするかを考えて、事務局に頼りすぎず、各委員の自力で可能な内容を実施したい。今回は一部の自治体の積極的な協力が有効であったが、各自治体に協力してもらうためには、協議会としての努力が必要である。

以上